

医療・介護制度改革の視点と具体的な検討項目

視点

高齢化の進展を踏まえた
医療・介護提供体制の確保

大きなリスクは共助
小さなリスクは自助

年齢ではなく負担能力
に応じた公平な負担

公定価格の適正化・包括化等
を通じた効率的な医療・介護

今後の検討事項※

□ かかりつけ医以外を受診した場合の定額負担の導入

□ 介護療養病床等の効率的なサービス提供体制への転換

◇ 地域医療構想に沿った医療提供体制の実現

◇ 医療費適正化計画の策定・実現（外来医療費に係る地域差の是正等）

◇ 医療費適正化計画の進捗状況等を踏まえた診療報酬の特例の活用あり方

◇ 病床再編や地域差是正に向けた都道府県の体制・権限の整備

□ 入院時の光熱水費相当額に係る負担の見直し

□ スイッチOTC化された医療用医薬品に係る保険償還率のあり方

□ 介護保険における利用者負担のあり方

□ 介護の軽度者に対する生活援助サービス・福祉用具貸与等やその他の給付のあり方

□ 高額療養費／高額介護サービス費の見直し

◇ 後期高齢者の保険料軽減特例の見直し

□ 金融資産等を考慮に入れた負担を求める仕組みの医療保険への適用拡大

◇ 医療保険における後期高齢者の窓口負担のあり方

□ 介護納付金の総報酬割導入

◇ 現役被用者の報酬水準に応じた保険料負担の公平を図るためのその他の課題

◇ 高額薬剤の薬価等のあり方（オプジーボ等）

◇ 費用対効果評価の導入

◇ 生活習慣病治療薬等の処方あり方

◇ 先発医薬品価格のうち後発医薬品に係る保険給付額を超える部分の負担のあり方

◇ 薬価改定のあり方（改定実績も踏まえ、その頻度を含め検討）

「工程表」の整理

医療・介護提供体制改革

負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化

診療報酬、医薬品等に係る改革